

ヨーロッパ史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
ヨーロッパ史概論	近世ヨーロッパ国家の諸特徴	2	田中 良英	3	月	2	1
ヨーロッパ史概論	18～19世紀ヨーロッパ国家の諸特徴	2	田中 良英	4	月	2	2
ヨーロッパ史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	3	水	2	3
ヨーロッパ史基礎講読	ドイツ語文献講読	2	浅岡 善治	4	水	2	4
ヨーロッパ史基礎講読	英語文献精読	2	有光 秀行	3	金	2	5
ヨーロッパ史基礎講読	英語文献講読	2	浅岡 善治	4	金	2	6
ヨーロッパ史基礎講読	フランス語文献精読	2	有光 秀行	3	金	4	7
ヨーロッパ史基礎講読	フランス語文献精読	2	有光 秀行	4	金	4	8
ヨーロッパ史各論	「ノルマン人の帝国」に生きる	2	有光 秀行	5	月	4	9
ヨーロッパ史各論	「戦間期(1918－39年)」再考	2	浅岡 善治	6	水	3	10
ヨーロッパ史各論	ドイツ農村社会史研究	2	山崎 彰	集中(5)			11
ヨーロッパ史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	5	火	4	12
ヨーロッパ史演習	中世ヨーロッパ史研究	2	有光 秀行	6	火	4	13
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討	2	浅岡 善治	5	木	2	14
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討	2	浅岡 善治	6	木	2	15
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近世・近代史の諸問題	2	杵淵 文夫	5	金	2	16
ヨーロッパ史演習	ヨーロッパ近世・近代史の諸問題	2	杵淵 文夫	6	金	2	17

科目名：ヨーロッパ史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：田中 良英 (非常勤講師)

講義コード：LB31201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近世ヨーロッパ国家の諸特徴

2. Course Title (授業題目)：

Historical Features of the Early Modern European States

3. 授業の目的と概要：

歴史を学ぶとは、年代や人名、事件の名称を暗記することではなく、過去の社会に関する従来の理解の妥当性を常に問い直すことである。「近世」ヨーロッパについては「初期近代」という呼び方もあるように、かつて「近代」の準備期間として捉えられる傾向が強かったが、近年では「近世」の独自性に着目する視点も提示され、それにより「近代」に関する理解も改めて多様化している。本講義では、近世ヨーロッパ史理解における新たな視点について紹介しつつ、各地域間の普遍性と独自性を考察する。

4. 学習の到達目標：

近世ヨーロッパ国家の基本的な特徴について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：「近世」ヨーロッパ史を考察する意義
2. 神聖ローマ帝国と中世ヨーロッパ
3. 世界の一体化の開始と「ヨーロッパ中心主義」
4. 長期的過程としての宗教改革
5. 三十年戦争と主権国家体制の萌芽
6. 領邦国家における富国強兵の試み
7. 「礫岩のような国家」と「イギリス革命」
8. 「財政=軍事国家」論
9. フランス王国における統治構造
10. 君主儀礼による統合機能
11. バルト海における覇権争い (1)
12. バルト海における覇権争い (2)
13. 大北方戦争とピョートル改革
14. プロイセン王国の台頭
15. 総括と展望

6. 成績評価方法：

授業時に全4回の小レポートを求めると共に (40%)、学期末に筆記試験を行い (60%)、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は特に定めず、資料などを授業時に配布し、文献についても適宜紹介する予定。なお全般的な参考文献として、大阪大学歴史教育研究会『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014年。南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える—』ミネルヴァ書房、2016年。

8. 授業時間外学習：

「概論」として、今後の専門的な学習の基礎になるような基本的知識の紹介に努めるが、入試教科として「世界史」を学んだ経験がないなど、講義内容の理解に不安がある場合には、概説書や紹介文献の講読などにより主体的に補完する態度が求められる。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史概論／ European and American History (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：田中 良英（非常勤講師）

講義コード：LB41202, **科目ナンバリング：**LHM-HIS204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

18～19 世紀ヨーロッパ国家の諸特徴

2. Course Title (授業題目)：

Historical Features of the European States in the Eighteenth and Nineteenth Centuries

3. 授業の目的と概要：

歴史を学ぶとは、年代や人名、事件の名称を暗記することではなく、過去の社会に関する従来の理解の妥当性を常に問い直すことである。「近世」的特徴を残しつつ、ヨーロッパ国家が近代化する過程に関し、その理解における新たな視点を紹介しつつ、各地域間の普遍性と独自性とを考察する。

4. 学習の到達目標：

18～19 世紀ヨーロッパ国家の基本的な特徴について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：「身分制社会」としての近世
2. 18 世紀ヨーロッパ国際関係の基本軸
3. 近世ヨーロッパにおける女性君主の正統性
4. 「啓蒙の世紀」としての 18 世紀
5. 啓蒙絶対主義 (1)：プロイセン王国
6. 啓蒙絶対主義 (2)：ハプスブルク君主国
7. 啓蒙絶対主義 (3)：ロシア帝国
8. ポーランド王国の解体過程
9. フランス革命と政治文化
10. ナポレオン帝国とウィーン体制
11. 伝統と近代化の相克：ロシアを中心に
12. 近代ヨーロッパにおける国民国家の志向
13. 近代ヨーロッパにおける多民族帝国
14. 産業化と「市民社会」
15. 総括と展望

6. 成績評価方法：

授業時に全 4 回の小レポートを求めると共に (40%)、学期末に筆記試験を行い (60%)、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書は特に定めず、資料などを授業時に配布し、文献についても適宜紹介する予定。なお全般的な参考文献として、大阪大学歴史教育研究会『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014 年。南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える—』ミネルヴァ書房、2016 年。

8. 授業時間外学習：

「概論」として、今後の専門的な学習の基礎になるような基本的知識の紹介に努めるが、入試教科として「世界史」を学んだ経験がないなど、講義内容の理解に不安がある場合には、概説書や紹介文献の講読などにより主体的に補完する態度が求められる。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB33205, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：

演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について

2. 試訳の検討と討論(1)a

3. 試訳の検討と討論(1)b

4. 試訳の検討と討論(1)c

5. 試訳の検討と討論(1)d

6. 試訳の検討と討論(1)e

7. 小括(1)

8. 試訳の検討と討論(2)a

9. 試訳の検討と討論(2)b

10. 試訳の検討と討論(2)c

11. 試訳の検討と討論(2)d

12. 試訳の検討と討論(2)e

13. 小括(2)

14. 課題発表(1)

15. 中間的総括(1)

6. 成績評価方法：

出席 30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%

7. 教科書および参考書：

Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB43204, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ語文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Reading in German

3. 授業の目的と概要：

演習形式によるドイツ語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および一定のドイツ語読解能力の涵養。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 課題発表 (2)
2. 試訳の検討と討論 (3) a
3. 試訳の検討と討論 (3) b
4. 試訳の検討と討論 (3) c
5. 試訳の検討と討論 (3) d
6. 試訳の検討と討論 (3) e
7. 小括 (3)
8. 試訳の検討と討論 (4) a
9. 試訳の検討と討論 (4) b
10. 試訳の検討と討論 (4) c
11. 試訳の検討と討論 (4) d
12. 試訳の検討と討論 (4) e
13. 小括 (4)
14. 中間的総括 (2)
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他（受講態度、課題の達成度など）70%

7. 教科書および参考書：

Wolfgang J. Mommsen, Die Urkatastrophe Deutschlands. Der Erste Weltkrieg 1914-1918, Klett-Cotta: Stuttgart, 2002.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB35203, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

英語文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading English Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

専門書・論文を読めるような英文読解力を身につけると同時に、西洋史についても理解を深めることを目指します。歴史と伝記についての論文を読む予定です。

4. 学習の到達目標：

英語で書かれた専門的論考の読解力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

英語で書かれた、歴史と伝記についての論文を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読（だいたい日本語で 1000 字くらいを予定）と解説。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（70%）と学期末翻訳レポート（30%。所定の授業期間に読み残したテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します。）

7. 教科書および参考書：

教室で指示します。

8. 授業時間外学習：

所定の箇所の訳を授業前に必ず作成・提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB45204, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

英語文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory Reading in English

3. 授業の目的と概要：

演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する入門的指導を行う。

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、およびより高度な英語読解能力の涵養。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1) a
3. 試訳の検討と討論 (1) b
4. 試訳の検討と討論 (1) c
5. 試訳の検討と討論 (1) d
6. 試訳の検討と討論 (1) e
7. 小括 (1)
8. 課題発表
9. 試訳の検討と討論 (2) a
10. 試訳の検討と討論 (2) b
11. 試訳の検討と討論 (2) c
12. 試訳の検討と討論 (2) d
13. 試訳の検討と討論 (2) e
14. 小括 (2)
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他（受講態度、課題の達成度など） 70%

7. 教科書および参考書：

開講後発表。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB35402, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フランス語文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading French Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

フランス語で書かれた専門書・論文の読解力を涵養することを目的とします。ヴァイキングに関する概説書を読む予定です。

4. 学習の到達目標：

フランス語で書かれた専門書・論文の読解力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ヴァイキングに関する概説書を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回は打ち合わせ。以後は毎回訳読（だいたい日本語で 700 字くらい）と解説。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（70%）と学期末翻訳レポート（30%。所定の授業期間に読み残したテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します）

7. 教科書および参考書：

教室で指示します。

8. 授業時間外学習：

所定の箇所の訳を授業前に必ず作成し、提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史基礎講読／ European and American History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB45403, 科目ナンバリング：LHM-HIS210J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フランス語文献精読

2. Course Title (授業題目)：

Reading French Texts on Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

フランス語で書かれた専門書・論文の読解力を涵養することを目的とします。ヴァイキングに関する概説書を読む予定です。

4. 学習の到達目標：

フランス語で書かれた専門書・論文の読解力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

前セメスターにつづき、ヴァイキングに関する概説書を読む予定です。毎回、所定の箇所の訳稿を授業前日までに提出してもらい、それに基づいて授業を進めていきます。第一回目は打ち合わせ。以後は毎回訳読（だいたい日本語で 700 字くらい）と解説。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（70%）と学期末翻訳レポート（30%。所定の授業期間に読み残したテキストの一部を学期末にレポートとして提出してもらい、獲得された読解力について確認します）

7. 教科書および参考書：

教室で指示します。

8. 授業時間外学習：

所定の箇所の訳を授業前に必ず作成し、提出すること。予習でわからなかった箇所、読み間違えた箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史各論／ European and American History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB51401, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「ノルマン人の帝国」に生きる

2. Course Title (授業題目)：

Living in the Empire of the Normans

3. 授業の目的と概要：

中世の「帝国」社会について具体的に理解することを目標とします。中世の日常言語で記された最初期の伝記の主人公、ウィリアム・マーシャルの、とくに後半生に着目します。

4. 学習の到達目標：

中世西北ヨーロッパ社会について、また「帝国」について、具体的な人物また史料を通して理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

11～13 世紀にノルマン人が進出した地域・社会を、近年 D・ベイツは「ノルマン人の帝国」として理解することを提案しています。その彼が提唱しているように、当時の人々の具体的な足跡をたどる中で「帝国」のあり方を考察します。大陸・ブリテン島・アイルランドと各地に所領を持った大貴顕、ウィリアム・マーシャルのとくに後半生に焦点をあて、当時の史料にも論究しながら論じます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50 パーセント）とレポート（50 パーセント）

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

教室で指示する参考文献を読みながら、予習・復習をかならずおこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史各論／ European and American History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB63301, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

「戦間期（1918－39 年）」再考

2. Course Title (授業題目)：

The Reconsideration of the Interwar Period (1918-39)

3. 授業の目的と概要：

100 年を目前にして、かつて E・H・カーが「危機の 20 年」と称した両大戦間期の歴史的再検討が急速に進んでいる。本講義では、近年の研究成果に依拠しつつ、戦間期のヨーロッパとアメリカの歴史を再検討する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 欧米各国史および国際関係史の観点から、20 世紀史の概要を把握する。
- (2) 近現代史の知見を基に、現代の諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー本講義の趣旨と進め方について
2. 最初の世界戦争の終わり
3. パリ講和会議（1）
4. パリ講和会議（2）
5. 「平常への回帰」？（1）
6. 「平常への回帰」？（2）
7. 「平常への回帰」？（3）
8. 民族の自決（1）
9. 民族の自決（2）
10. ヴェルサイユからロカルノへ
11. ファシズムとコミュニズム（1）
12. ファシズムとコミュニズム（2）
13. ファシズムとコミュニズム（3）
14. 新たなる世界戦争
15. 総括と展望

6. 成績評価方法：

筆記試験を行い、その成績に基づいて評価する。

7. 教科書および参考書：

特定の教科書は使用しない。参考文献は授業の進行に合わせて随時紹介する。事実関係の確認には、大江一道『世界近現代全史Ⅲ 世界戦争の時代』（山川出版社、1997 年）が有用である。

8. 授業時間外学習：

「各論」でありながらも内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの事由により本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史各論／ European and American History (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：山崎 彰（非常勤講師）

講義コード：LB98815, 科目ナンバリング：LHM-HIS305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ農村社会史研究

2. Course Title (授業題目)：

Rural Social History of Germany

3. 授業の目的と概要：

ベルリン周辺に広がるブランデンブルク地方の農村社会史について、以下の点を論じる。①研究史について。②ドイツの文書館と所領文書について。③自然環境と資源利用について。④定住形態について。⑤領主制と土地貴族について。⑥農村の市民社会化について。

かつてエルベ川の東部に位置するブランデンブルク地方の農村は、権威主義的な特殊ドイツ的政治社会の社会基盤と見なされてきた。しかし東西ドイツ統合後は、むしろ東部ドイツ農村社会にヨーロッパ社会共通の性格を見いだそうとする研究が増えている。授業では上記の論点を中心に、中

4. 学習の到達目標：

- (1) ヨーロッパ農村社会の基本的特性を理解する。
- (2) 環境と自然資源利用の歴史を理解する。
- (3) 農村史とヨーロッパ市民社会の関係について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ヨーロッパ地域社会の歴史的特性—農村と都市
2. 研究史
3. 文書館利用と領地文書—日本の地方文書との比較
4. ブランデンブルクの自然環境—台地と低湿地
5. 中世における定住形態と自然利用
6. 三十年戦争と「17世紀危機」
7. 三十年戦争後の復興と近世農場領主制の形成
6. 低湿地開発—経済資源の拡大
7. 農民をめぐる裁判と土地評価制度の形成—農民の権利安定化と都市知識人の役割
8. 領主制解体の過程

6. 成績評価方法：

出席点(40点) 試験(60点)

7. 教科書および参考書：

参考書：

山崎彰『ドイツ近世的権力と土地貴族』（未来社）

藤田幸一郎『ヨーロッパ農村景観論』（日本経済評論社）

飯尾唯紀『近世ハンガリー農村社会の研究』（北海道大学出版会）

桐生裕子『近代ボヘミア農村と市民社会』（刀水書房）

8. 授業時間外学習：

大塚久雄『共同体の基礎理論』（岩波現代文庫）を読んでおくことが望ましい。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB52405, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

歴史学の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

通常の授業時間は、フランス語のテキスト（中世伝記研究をあつかった論文の予定）を、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者は自分が作成した訳文を印刷し、参加者全員その訳に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。第一回目は打ち合わせ。以後は訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答。また学期末には、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する邦語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50%）とレポート（50%）。

7. 教科書および参考書：

授業開始時に指示します。

8. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：有光 秀行（教授）

講義コード：LB62406, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中世ヨーロッパ史研究

2. Course Title (授業題目)：

Study in the Medieval European History

3. 授業の目的と概要：

歴史学の文献の読解力を養うとともに、研究の最前線に関する知見を深めることが目的です。教室における文献の読解・検討と、レポート作成を、2つの柱とします。

4. 学習の到達目標：

さまざまな文献の読解力を獲得するとともに、学界での研究の諸動向を理解し、卒業論文・卒業研究作成にそなえる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

前セメスターにつづき、通常の授業時間は、フランス語のテキスト（中世伝記研究をあつかった論文の予定）を、分担箇所を決めて読みます。事前に担当者は自分が作成した訳文を印刷し、参加者全員その訳に目を通した上で、授業に臨んでもらいます。毎回、訳読（基本的に一人一段落）と質疑応答を基本とします。また前セメスターに作成したレポートの報告会もおこないます。学期末には、やはり前セメスターと同様に、中世ヨーロッパに関し、各人が興味を持つテーマを自ら設定して、それに関連する邦語論文を読みまとめたレポートを提出してもらいます。作成上の指導は随時おこないます。

6. 成績評価方法：

授業参加状況（50%）とレポート（50%）。

7. 教科書および参考書：

授業開始時に指示します。

8. 授業時間外学習：

毎回読むフランス語テキストの予習・復習をおこなうこと。およびレポート作成のための文献探索・読解を随時おこなうこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB54206, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.

3. 授業の目的と概要：

演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の趣旨と進め方について
2. 試訳の検討と討論 (1) a
3. 試訳の検討と討論 (1) b
4. 試訳の検討と討論 (1) c
5. 試訳の検討と討論 (1) d
6. 試訳の検討と討論 (1) e
7. 小括 (1)
8. 試訳の検討と討論 (2) a
9. 試訳の検討と討論 (2) b
10. 試訳の検討と討論 (2) c
11. 試訳の検討と討論 (2) d
12. 試訳の検討と討論 (2) e
13. 小括 (2)
14. 課題発表 (1)
15. 中間的総括 (1)

6. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など) 70%

7. 教科書および参考書：

望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004 年; Bailey Stone, The Anatomy of Revolution Revisited: A Comparative Analysis of England, France, and Russia, New York, 2014.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：浅岡 善治（准教授）

講義コード：LB64205, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近代革命の歴史的再検討

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Seminar in English: The Reconsideration of the Revolutions in Modern Europe.

3. 授業の目的と概要：

演習形式による英語文献講読を中心として、ヨーロッパ史研究に関する基本的指導を行う

4. 学習の到達目標：

専門的歴史研究に向けての基本的素養の獲得、および英語文献の正確な読解。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 課題発表(2)
2. 試訳の検討と討論(3)a
3. 試訳の検討と討論(3)b
4. 試訳の検討と討論(3)c
5. 試訳の検討と討論(3)d
6. 試訳の検討と討論(3)e
7. 小括(3)
8. 試訳の検討と討論(4)a
9. 試訳の検討と討論(4)b
10. 試訳の検討と討論(4)c
11. 試訳の検討と討論(4)d
12. 試訳の検討と討論(4)e
13. 小括(4)
14. 中間的総括(2)
15. 総括

6. 成績評価方法：

出席 30% その他(受講態度、課題の達成度など)70%

7. 教科書および参考書：

望田幸男・芝井敬司・末川清『新版 新しい史学概論』昭和堂、2004 年; Bailey Stone, The Anatomy of Revolution Revisited: A Comparative Analysis of England, France, and Russia, New York, 2014.

その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

9. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科 5F・539 E-mail: asaoka@m.tohoku.ac.jp

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：杵淵 文夫（非常勤講師）

講義コード：LB55209, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近世・近代史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The problems of the European modern Historiography

3. 授業の目的と概要：

本授業はまず、ドイツ語の史資料を順番に訳読しその解釈を討論することを通じて、ドイツ語文献の読解能力を涵養する。同時に、卒業論文ないし卒業研究を見据えつつ、各自テーマを設定して研究動向等の調査を実施し、その成果を発表する。これらの課題を通じて、歴史研究を行うための基礎的な素養を習得する。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語の読解能力を含めヨーロッパ史の専門的研究を行う上で必要な知識や技法を身につけること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の進め方と成績評価等の確認
2. テキスト解釈の報告と討論(1)
3. テキスト解釈の報告と討論(2)
4. テキスト解釈の報告と討論(3)
5. テキスト解釈の報告と討論(4)
6. テキスト解釈の報告と討論(5)
7. 課題報告（前期中間）(1)
8. 課題報告（前期中間）(2)
9. テキスト解釈の報告と討論(6)
10. テキスト解釈の報告と討論(7)
11. テキスト解釈の報告と討論(8)
12. テキスト解釈の報告と討論(9)
13. テキスト解釈の報告と討論(10)
14. 課題報告（前期最終）(1)
15. 課題報告（前期最終）(2)

6. 成績評価方法：

授業参加の積極性 30%、課題の達成度 30%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回テキストの邦語訳や発表準備など十分な準備をして臨むこと。

9. その他：

科目名：ヨーロッパ史演習／ European and American History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：杵淵 文夫（非常勤講師）

講義コード：LB65207, 科目ナンバリング：LHM-HIS312J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ近世・近代史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The problems of the European modern Historiography

3. 授業の目的と概要：

本授業はまず、ドイツ語の史資料を順番に訳読しその解釈を討論することを通じて、ドイツ語文献の読解能力を涵養する。また、前期に引き続いて、各自で設定したテーマについて文献の調査や分析を進め、その成果を発表する。これらの課題を通じて、卒業論文ないし卒業研究の準備を完了させる。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語の読解能力を含めヨーロッパ史の専門的研究を行う上で必要な知識や方法を身につけること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス：授業の進め方と成績評価等の確認
2. テキスト解釈の報告と討論(1)
3. テキスト解釈の報告と討論(2)
4. テキスト解釈の報告と討論(3)
5. テキスト解釈の報告と討論(4)
6. テキスト解釈の報告と討論(5)
7. 課題報告（後期中間）(1)
8. 課題報告（後期中間）(2)
9. テキスト解釈の報告と討論(6)
10. テキスト解釈の報告と討論(7)
11. テキスト解釈の報告と討論(8)
12. テキスト解釈の報告と討論(9)
13. 課題報告（後期最終）(1)
14. 課題報告（後期最終）(2)
15. 授業総括

6. 成績評価方法：

授業参加の積極性 30%、課題の達成度 30%、レポート 40%

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回テキストの邦語訳や発表準備など十分な準備をして臨むこと。

9. その他：